

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人あけぼの学園
施設名	あけぼのほりえこども園
報告者（役職）	安家 力（園長）
住所・連絡先	大阪府大阪市西区北堀江 4-2-10
	 06-6531-0808
	E-mail horie@akebono.ed.jp

### ○タイトル（保育計画）

保育環境評価スケール ECERS を指標とした、主体的な遊びに向けた保育環境充実

### ○主な助成備品

玩具用の棚・ままごと用机・ままごと台・鉄棒・図鑑・絵本

## 1. 保育計画策定の目的

子どもたちの主体的な遊びから獲得される「非認知能力」の育ちに着目し、その能力を刺激する様々な仕掛けを環境的にも行うために、園内環境にはアメリカの保育環境評価スケール（ECERS）を取り入れ、これまで保育室の環境充実を図ってきました。小学校教育を先取りするような、いわゆる認知能力に訴える教育・保育ではなく、先にも触れた「非認知能力」つまり子どもたちの生きる力、継続して遊び込む探求心、好奇心、友達との関係を通して育つ社会性などがより豊かに環境からも導けるよう、今回の助成物品を通してその実現へ向けた環境構成を強化することを目的としました。

3つの助成物品のカテゴリそれぞれについては、子どもたちのなりきり遊びの中で、例えばままごとにおける役割分担や第三者になりきるごっこ遊びを通して、乳幼児期には発達のまだまだ未熟な客観的な視点の育ちを助長・獲得することや、社会性の獲得を。さらに都会の真ん中に位置する園であるからこそ、子どもたちの体幹の弱さなどが顕著に問題視される環境の中で、運動能力を向上させるための鉄棒を活用した様々な運動遊びの展開を。そして園内に多く整えられた自然物が織りなす環境に集まる動植物への興味関心を自らが広げるための図鑑や絵本といった観点で助成物品の活用を行いました。

そして、全ての物品に共通して子どもたちが普段から自由にそれらの物品を使うことができ、その中で自らが工夫して主体的に活動することができるような時間の確保と、環境の確保を大切にしました。

## 2. 具体的な実施内容

### ①玩具用の棚・ままごと用机・ままごと台

子どもたちが主体的に多くの選択肢の中から遊びを決め、それを遊び込むことで、好奇心や探求心、友達との社会性等が深められるよう、玩具棚・ままごと用机（子ども用ちゃぶ台）・ままごと台（シンク）を1歳～5歳までの全保育室に配置し、前述の通り子どもたちの主体的なごっこ遊びが広がるよう環境設定を行いました。更にそれらの物品を遊びのコーナーのための仕切りとしても使うことで、静と動の遊びを区別し、一人ひとりがより遊びに集中することができるような空間構成を行いました。



### ②鉄棒

単独の鉄棒を3基配置（乳児園庭1基、園庭2基）することで、運動遊びの環境を充実させ、自ら自由な遊びの時間の中で回る、登る、ぶら下がるといった運動遊びが自然に行えるようにしました。更に、身体機能がより向上するようサーキット遊びの中でも鉄棒を活用し、子どもたちの運動機能の向上を目指しました。大阪市西区という運動機会の非常に乏しい都会で、保育時間に最低限以上の運動機能への訴えかけを環境から導きました。



### ③図鑑・絵本

園内の環境の中に、「空庭」という野草の畑エリアがあります。そこには都会の真ん中とは思えないほど多くの鳥が飛来し、そして自然に運ばれた草の種が更にそのエリアを賑やかにしてくれます。そこには、どこから来たのか蝶々・ハチ・テントウムシ・ダンゴムシ、ゲジゲジ、鈴虫、コオロギ、カナブン、アオムシといった小虫が生息するようになり

ました。子どもたちは空庭の草を分け入り、そこで見つけた虫を保育室に持ち帰り、飼育ケースに入れて観察し、そして保育室や絵本のお部屋に置かれた図鑑でその特徴や生態を調べたり、様々な虫をテーマにした絵本でその物語を楽しむといった日常が生まれました。



### 3. その成果と評価

保育環境評価スケール ECERS に示される指標を基に保育環境の設定を行っていく中で、どうしても当初予算では準備しきれなかった備品の中でもできるだけ早く準備をしたい物品について今回の助成により準備をすることが可能となりました。

玩具用の棚・ままごと用机・ままごと台を通して ECERS の項目 1～3・21・34 における遊びと学びのための室内構成の向上が達成されました。さらに鉄棒によって ECERS の項目 6・7・28 における粗大運動遊びの空間・設備・用具の質の向上が達成されました。それに加えて図鑑・絵本によって ECERS の項目 14～16 の絵本環境・22 の自然/科学に対する興味・知識の向上というものを導き、そして更に高める活動に繋げていくことができました。

何よりも子どもたちの主体的な遊びが更に広がるための環境構成という考え方の中で、自由に使うことができる環境を豊かに整えることで、自然にそれらの助成物品を子どもたちが使い、育ちが広がっていく姿があり、改めて子どもたちを取り巻く保育環境の重要性について認識し、素晴らしい環境が子どもたちにもたらす効果を実感することができました。

### 4. 今後の課題と展望

最も重要なことは、豊かな保育環境というものには決まった型があるわけではなく、その時その時の子どもたちの遊びの内容や状況に合わせて少しずつ変化させていく必要があるということだと考えます。今回の助成で購入できた物品を一つのきっかけとして、更に充実した環境となるために今後導入していく様々な物品の活用方法や、それをより良く活用していくための教職員の学びというものも併せて欠かすことができないものだとすることを再認識しています。

更に、家庭ではなかなか味わうことのできない遊びの提供という点においても、子どもたちの豊かな経験が更に獲得されるために、子どもたちの育ちを第一義に考え、その機会をより多く生み出すことのできるような環境や取り組みを試行錯誤しながら続けていくことで、保育の質向上を更に目指していきたいと思えます。

以上